

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 絆

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101362		
法人名	有限会社絆		
事業所名	グループホーム 絆		
所在地	〒020-0861 盛岡市仙北3-14-41		
自己評価作成日	令和2年8月18日	評価結果市町村受理日	令和2年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者がその人らしく自立支援に繋がる生活ができるよう内部・外部研修を取り入れるなどして改めて高齢者や認知症の理解を深め、職員一人一人がスキルアップし介護のプロとして、個別ケアの実現に向けて取り組んでいる。また、地域参加や地域資源の活用など、地域との繋がりを深める為、積極的に取り組めるよう調整している。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年9月7日

<p>事業所は、JR仙北町駅近傍の旧国道4号線から少し入った住宅地の中にあり、ドラックストアや住宅、アパートの多い地域に、一般住宅を改築して開設し、17日目になる二階建てのグループホームである。運営理念に「人格を尊重し、その人の持っている能力に応じた自立を目指す」とあるように、利用者に寄り添い、思いを聴く時間を多くとり、意向に沿った食事、外出支援などの日々の暮らしに活かしている。利用者や家族の絆を育み、面会時の利用者や家族の楽しい声や笑顔が、職員の励みになっている。職員は、利用者の観察をしっかり行い、持てる能力を把握し、根拠に基づいたケアの提供を進めるべく、介護技術の向上に努めている。利用者には、良質なケアを実施し、安心、安全な生活を提供できる事業所である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は出来ているが、理念の理解度が低い。理念の実践に向けて、職員会議や内部・外部研修を通し理解度を高め実践できるよう予定を立てている。(調整中)	運営理念を、事業所の入り口と居間兼食堂に掲示している。理念の共有は出来ているが、開設17年目になり、理念及び介護全般についての理解を深めるため、9月の職員会議で理念についての話し合いを予定している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には回覧板を届ける、日用品の買い出しを一緒にする、近所への散歩等での挨拶等で地域と交流できるよう支援している。より広く深く地域参加できるよう町内会への参加を調整中。	事業所の周辺は、アパートが多い住宅地にある。町内会に加入し、利用者と一緒に回覧板を届けている。町内会の舟っこ流しなどの行事に誘われているが、各行事がコロナ禍で中止になっている。以前、事業所主催で行っていた絆祭りは盛況で、町内の皆さんと共に実施してみたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の草取りや掃除に職員が参加し地域貢献につなげている。 推進会議で民生委員や包括支援センターと情報共有し地域参加について相談しながら利用者を含めた地域参加や地域貢献できる支援を模索中。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。推進会議への出席者は地域包括支援センター、民生委員、外部業者、利用者のご家族、職員である。出席者の方々と利用者に対するサービス内容の報告や問題点などの話し合いを行っている。会議で議題にしたいテーマのアンケートを取り予定を立てているがコロナにより今期は開催はないが、書面で実施している。	運営推進会議には、民生児童委員、地域包括支援センター、利用者家族、外部業者(訪問マッサージ師)、職員が出席し、年6回開催している。今年2月以降、コロナ禍により書面での会議とし、委員からは、テーマ、行事等への意見・要望を伺いながら、事業所からは提言への回答などをお知らせしている。当面、書面配布により会議を開催することとしている。	今後も、書面配布による運営推進会議が続く場合、各委員の疑問、提言への回答や今後の方針等の報告を継続することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状報告等を行い協力関係を構築している。	市の介護保険課へは、報告書や変更届けをその都度持参している。運営推進会議委員のイーハート包括支援センター職員から、地域の介護保険情報や事業所の活動に指導・助言を頂いている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束対象者はいないが、毎月の職員会議と併せ、身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束をしないケアについて正しい知識を深められるよう内部研修等を予定している。	身体拘束廃止委員会を年4回開催しており、その内容を運営推進会議に報告している。無断外出の利用者には見守りに対応し、夜間以外、玄関は施錠していない。スピーチロックについては、職員間で相互に注意しあっている。今後、身体拘束の事業所内研修を予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎年高齢者虐待防止について内部研修を予定している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止と同様に職員会議の中で権利擁護に関する理解を確認し日々のケアに活用出来る様内部・外部研修を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際にご家族へ適切な説明をし、不安や疑問点を解消できるよう説明を行い理解を図り納得した上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望箱を設置し家族が意見等を出しやすいようにしている。出た意見等は職員会議で話し合っている。 推進会議や面会時に家族から受けた意見、要望等は本社へ報告し運営に反映している。	豆まきなどの行事や利用者全員のスナップを掲載した「絆ニュースペーパー」を家族に送り、利用者の表情や生活ぶりをお知らせしている。運営推進会議や面会時に家族から意見・要望を伺っている。利用者に日々寄り添い、思いや意向を把握し、職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を通し、職員の意見や提案を受け運営に反映させるよう努めている。個人面談等の機会を定期的に設けるよう努めたい。	全体会議は開催できていないが、日々のミーティングを毎日3回行ない内容を回覧し、職員間で共有している。意見・要望は、内容に応じ管理者が改善出来る場合は即実行し、それ以外は本社に相談している。代表者と職員の個人面談を予定している。	

事業所名 : グループホーム 絆

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の勤務状況を把握しながら労働時間、労働環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足等により、内部研修・外部研修の機会が減っている為、無理のない研修計画を立て職員の介護ケア向上推進に努める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会やいきいき財団主催の研修参加を通じて、同業者と交流する機会を設ける取り組みをしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に居宅のケアマネより情報提供してもらい情報収集した上で、本人と話し合い相談しながらケアプランを作成し、信頼関係ができるよう努めている。適切な対応ができるよう職員へも周知し職員同士の意見交換をしっかりと行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の情報収集や家族との面談で困りごと等を把握している。 また、利用者へのサービス提供が家族にとっても満足できるものであるように、要望へ耳を傾けケアプランに反映するなど信頼関係が構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集からケアプランへ反映しサービス提供につなげている。本人・家族へ情報提供し相談し、外部のサービス利用も含めて一緒に検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な会話や、洗濯物など出来る事は一緒に行ったり、本人の役割にしたりする事で支えあいながら共同生活していると思われるような関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時の家族の都合や状況・立場を考え、その都度相談や話合いの場を持ち共に支えていける関係性を築いている。 また、毎月状況や様子報告を書面で送付し、都度問い合わせ等に対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関りは継続出来ているが、家族以外の馴染みの人や場との関係継続の支援は出来ていない。本人や家族から情報収集し支援に繋がるよう調整予定。	これまでは、家族を含め月10人くらいの面会者があり、お盆に墓参りに行き外泊する利用者もいた。家族、理美容師、傾聴ボランティアも、来訪に当たっては、面会制限(2月～7月)解除後も自粛ムードが続いている。以前、事業所の生活を撮影したビデオがあり、それを見て皆で懐かしんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が一人ひとりの個性を理解し、必要時仲介するなどして利用者同士が支えあったり関係性が維持できるよう環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況変化に随時対応し、個々に適した行先の選択について情報提供に努め、相談支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々の会話等を通して意向の把握に努め、意思決定や自己選択ができるよう支援している。 また、本人へ直接意向を聞くことは難しい方にも、日々の暮らしの中で職員が個々のやりたいことに気づいて支援できるように努めている。	利用者には、意思を自己決定できるよう問いかけを工夫し、また、日々の生活を通じた会話、表情などから思いや意向を把握し、介護計画に反映させている。その内容は、申し送りノートなどで、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の居宅ケアマネからの情報収集、本人・家族からアセスメントを踏まえて状況把握に努めている。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が業務内において日々変化する状態を見落とさないようにし、申し送りや記録等で情報共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を把握した上で、職員会議やケアカンファレンスを行い、現状に即した計画を作成している。	利用者や家族の意向を把握し、月1回のケアカンファレンスで職員の意見を聞き、現状に即して計画を作成している。計画案を介護支援専門員が作成し、家族の同意を得て決定している。アセスメントやモニタリングは、申し送りノートや業務日誌などを基に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や提供したケアの状況はケース記録に記入し、申し送りノートも活用し職員間で情報共有している。ま 利用者の状況や職員からの気づき・意見等を受けてその都度カンファレンスを開催し計画の見直し等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急な受診が必要な時など家族対応が困難な場合は職員が支援できるよう調整している。 その他臨機応変に対応できるよう、何かあった際には臨時にカンファレンスや職員会議を開催し支援に繋がるよう体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のドラッグストアに利用者と一緒に買い物に行くなど地域資源を活用している。今後も町内会への参加等を通し地域との繋がりを深めていけるよう調整している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による定期的な訪問診療の利用を基本としながら、個々のかかりつけ医との連携もできる よう必要に応じて職員が同行するなど主治医との関係性を築きながら適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者7名のうち、6名が訪問診療医をかかりつけ医とし、月1回の訪問診療を受診している。 個々の受診の場合は、必要に応じ職員が同行している。、毎週1回健康管理のために来所している訪問看護ステーションの看護師は、緊急時の相談にも対応してくれ、職員は心強く感じている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状態や変化等記録し訪問看護師訪問日に情報提供し情報共有し相談・助言を受けている。また、状態変化時等も電話で相談し随時適切な対応が受けられるような支援している。(緊急時等の対応も体制を作り、職員間で周知徹底している。)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看取りを希望する家族が多い為、入退院はしばらくは、入退院となった場合の情報交換等は書類作成するなど準備は出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と家族、事業所で方針を確認し、事業所で出来る事出来ない事を説明し、家族の同意を得て主治医・家族・訪問看護と連携し支援している。	医療連携体制に関する指針を策定している。入居時に重症化、終末期の対応について説明し同意を得ている。状態の変化に応じ、改めて家族の意向を再確認している。かかりつけ医、家族、訪問看護と連携し、これまで3名の看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の対応については利用者個別での対応を周知し連絡体制を整備している。利用者個別の対応方法は職員間でカンファレンスや送り等で情報共有し周知している。 応急手当等については内部研修を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は消防署員立会のもと行っているが、災害避難時に地域の協力を必要とするため、協力体制の構築に努める為調整中。	避難訓練を年2回予定しているが、春の訓練はコロナ禍により中止している。秋に、夜間想定避難訓練を計画している。市のハザードマップ上、浸水区域に該当しており、避難通報を待たず、早め早めの避難をするべく、非常呼集、避難経路などの検討をしている。AEDを設置し、地域の方と共有したいと考えている。	災害対策を強化するため、新入職員に対し火災時の通報方法、非常呼集の指示方法を教示し、職員に対しても、会議で再度の徹底と避難経路の再確認等を行うことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた言葉かけや対応をしている。また、その都度カンファレンス等を通し、職員で情報共有・意見交換をし対応や支援の見直しをしている。	理念にある「人格を尊重し、自分らしく」を合言葉に、言葉かけや対応を行っている。利用者へは名前で声がけており、家族に呼び方を確認したり、旧姓で呼ぶこともある。「わたしで出来るのに手を貸されて嫌がる」プライドの高い利用者については、暮らしぶりを職員間で共有出来るようケース記録の記載には留意している。介護計画などの文書は、利用者の目の届かない場所にしまっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて、衣類の選択や活動について、自己決定や意思表示ができるよう日常的に本人に確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設である以上、全てを個々のペースに合わせる事は難しいが、極力個々の希望に添える様、その日の勤務者で調整し臨機応変に対応し、不快に感じる事がないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力も得ながら、個人の好みを尊重できるよう日常的な衣類の選択や、ヘアカット時に美容師への要望が出来る様仲介するなどの支援をしている。みだしなみに関わる個別の買物支援も予定している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りが好きな利用者とは一緒に作り、盛付け・片付けまで行っている。また、調理や片付け等が出来ない利用者へも献立のリクエストを聞いたり、冷蔵庫をみながらその日の献立を一緒に考えてもらったり楽しみにつながるよう支援している。食形態も個別対応しており、見た目も工夫している。	利用者は食事を楽しみにし、職員と一緒に献立を考え、買い物に行ったり、出来ることを手伝い、職員と一緒に食卓を囲んでいる。ホットケーキ、どら焼きなどのおやつも楽しみの一つとして職員と作っている。正月の白玉団子、花見弁当、パイキング、とうもろこし、冬至かぼちゃ、さんま焼き、クリスマスケーキなどを季節に応じて提供している。おかゆや刻み食など、利用者の機能に合わせた食形態に配慮している。	



令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量について記録用紙を活用し、情報共有しながらその日の状態や状況に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に合わせた口腔ケア支援を実施している。 また、訪問歯科による口腔ケアも実施している利用者もあり、歯科と情報共有や助言を受け、適切な支援の実施に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カンファレンス等を通し、個々に合った時間や排泄用具を検討し自立支援に繋げている。	日中は全員トイレを使用しており、一人で行ける方が2名、夜間ポータブル使用が1名で、おむつの使用者はいない。布パンツを希望する利用者には、失敗をさりげなくフォローしながら、意向を尊重している。リハビリパンツや尿取りパット等の排泄用品の適切な使用を工夫しながら、自立に向けた機能の維持、向上に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人や家族からの情報収集も含め、日々の個々の排泄パターンを把握し、主治医や訪問看護と連携し排便コントロールを実施している。 また、日常的に水分補給や体操を採り入れるなどの便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設である以上、個々のペースに合わせる事は難しいが入浴方法等は個々(の好みや状態)に合わせて支援している。 より入浴が楽しめる様、利用者の意見を聞きながら環境整備や支援を検討中。	3日に1回の入浴を基本としながら、毎日浴室の準備をしており、希望者は何時でも入浴できている。着替えは、出来る方には自分で選んでいたが、難しい方は二択にする等、極力自分で選べ自分で準備できる様な支援を行っている。職員と様々な話をしながら、ゆっくり入浴している。季節には柚子湯や菖蒲湯も用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣やその日の状態に応じて休養や睡眠ができるよう支援している。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケースファイルの薬情を綴り、薬情ファイルを作成し、変更がある都度差し替えや申送り等を行い常時確認できるようにしている。服薬マニュアルを作成し、内服薬管理を徹底し内服支援している。症状の変化の確認をし必要に応じて主治医や訪問看護に相談・助言を受け対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力に合わせた役割や活動の機会を提供し、利用者同士で教えあえる場や機会を作るなどの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿っての外出は出来ていないが、近所への散歩や階段版を届けるなどの外出はしている。また、テラスへ出て気分転換が出来る様配慮している。 本人の希望を把握し家族や地域の協力を得ながら実現に繋がるような支援方法を調整中。	これまでは、事業所の周りを散歩したり、花見、チャグチャグ馬っこ、七夕、さんさ踊りなどの見物に出かけていた。今年は、暑さとコロナ禍で外出を控え、涼しい時間帯に散歩したり、回覧板を届けるなどをしている。気分転換にウッドデッキで外気浴しながら、お茶っこタイムを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理が出来る利用者がいない為、家族からの預かり金は施設管理している。支払い能力のある利用者には買い物の際の支払い時、支払い金額に合わせて小銭からとってもらうなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在利用者自らが電話したり手紙のやり取りをしたりの希望がない為、支援の実施がしていないが、希望があればどのような支援ができるか家族とも相談しながら検討していく予定。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の一部は機能していない状況の為、居心地の良い空間を作り利用者が居心地よく過ごせる空間が選択できるようしつらえや環境整備を検討中。また、季節感を感じられる様なしつらえ、生活感を忘れず家事等が行いやすい動線や環境整備を検討中。	住宅を改装した事業所は、家庭的雰囲気を感じられる。居間兼食堂には、食卓、椅子、テレビが置かれ、小上がりのソファーとともに、憩いの場となっている。利用者と職員が寄り添いながらお話しており、笑い声も聞こえてくる。食事前には、利用者が大きな声で、滑舌体操を行なっている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の一部は機能していない状況の為、居心地の良い空間を作り利用者が居心地よく過ごせる空間が選択できるようしつらえや環境整備を検討中。また、季節感を感じられる様なしつらえ、生活感を忘れず家事等が行いやすい動線や環境整備を検討中。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に説明し、本人が使っていたものや馴染みのあるもの等の持参を呼び掛けている。また、各利用者に担当を付け、担当を中心とし利用者の希望を把握し利用者が過ごしやすい居室になるよう、利用者・職員で相談しながら居室作りが出来る様調整中。	居室は、一階に5部屋、二階に4部屋あり、ベッド、エアコン、床頭台が備え付けられている。家族や孫の写真、好きなタレントのポスター、カレンダーなどを飾り、自分の家になっている。なかにはソファ、椅子を持参している利用者もいるが、自宅から馴染みの物を持ってきている利用者は少ない。居室の管理は、担当職員が利用者と相談しながら行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一般的な住居である為、段差もあるが、個々の症状や病状・状態に合わせて安全に生活できるよう、個々の行動パターンや動線を把握し、環境整備や必要に応じて声掛けや介助をしている。		